

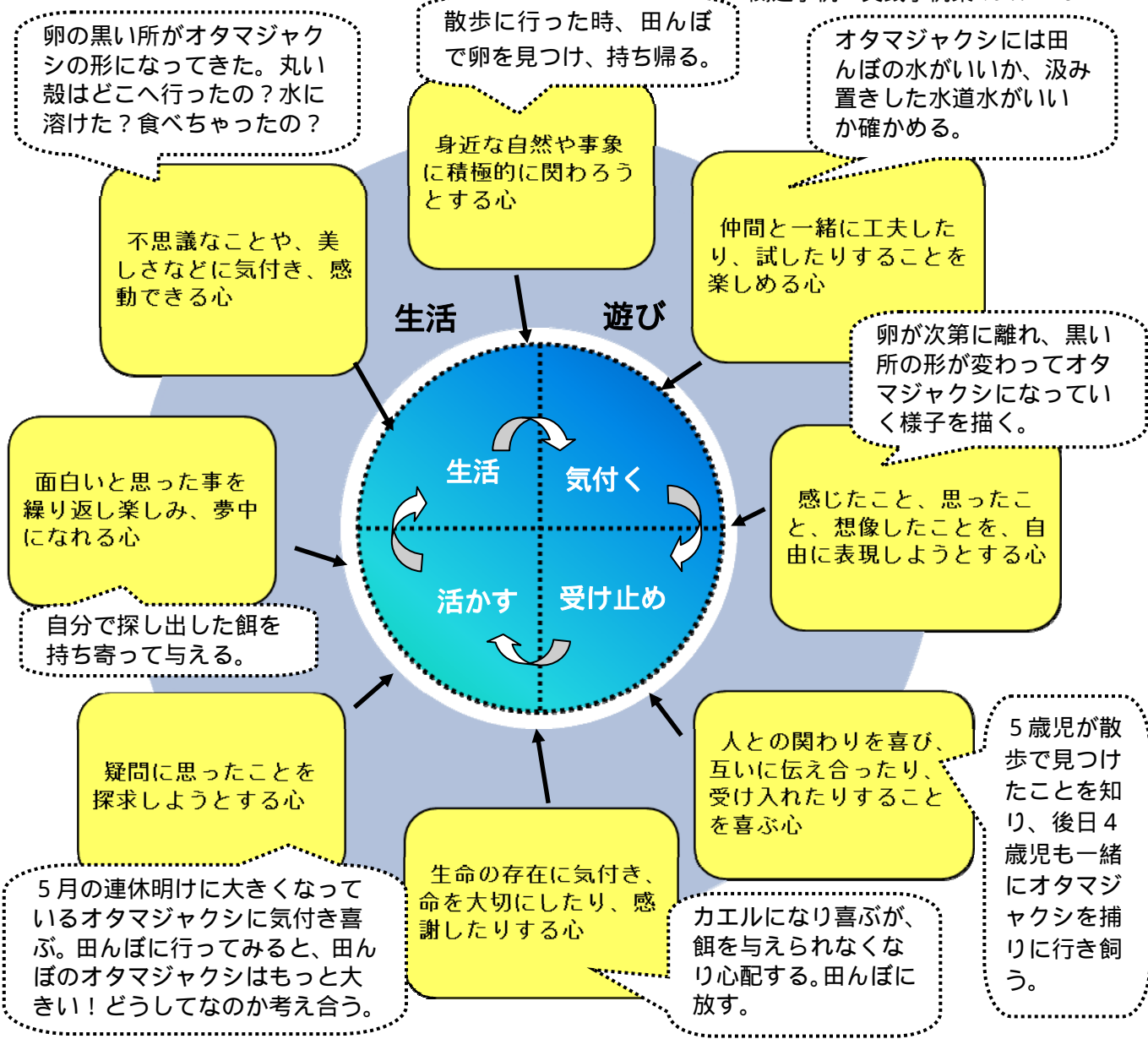
科学する心とは ~主題の捉えと実践~

若葉台保育園(福島県いわき市)

[5歳児]

幼児期の「科学する心」を下記の構造図のように捉えました。
 そこで、5歳児のオタマジャクシの事例から把握できる子どもの姿を、その中で具体的に示した“8つの心”に重ねてさらに理解を深める。

関連事例...実践事例集 vol.7 P25



子どもは、感じたこと・考えたことをこれまでの経験と結びつけて、自分なりの論理を展開します。保育者が子どもの心の動きや言葉を大切に捉えることは、子どもの論理を知ることに繋がっていると思います。私たち保育者が、子どもの「不思議」から始まる子どもなりの論理を取り上げながら、環境作りや援助のあり方を探求し、子どもの主体的な活動を支えていきたいと考えました。

また、その子どもなりの論理は、遊びだけでなく生活とも密接に結びついているように感じました。その結びつき(つながり)を保育者が捉え、必要な援助をしながら活動が発展していくよう心がけました。



みどころ

「科学する心」について捉えた内容から、子どもたちの成長を判断することができます。そこに実際の姿を当てはめることで、「科学する心」の育ちが期待できる体験を重ねている子どもたちの実態を把握することに結び付いています。